

湯浅克俊 個展 Colours / Numbers

Solo Exhibition by Katsutoshi Yuasa

Colours 2016.4.2 (Sat) —16 (sat)

Numbers 2016.4.19 (Tue) —30 (sat)

アーティストトーク 4/16 (Sat) 18:30~20:00

日、月 休廊(4/29 は開廊) Closed on Sunday, Monday

12:00 — 19:00

YUKI-SIS

東京都中央区日本橋本町 3-2-12 日本橋小楼 202 03-5542-1669

info@yuki-sis.com <http://yuki-sis.com>

3-2-12- #202,Nihonbashi Honcho,Chuoh-ku,Tokyo

103-0023,JAPAN +81(0)3 5542 1669

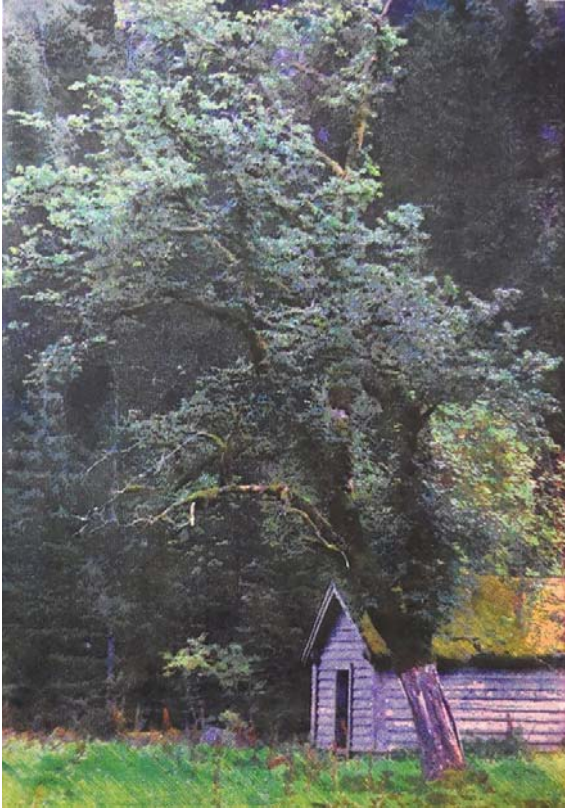


Songenes Sang 100cm x 200cm

YUKI-SIS では、4月2日(土)より、湯浅克俊個展「Colours / Numbers」を開催いたします。

今回の展示は2部構成になっており、ColoursとNumbersで全く異なる作品、展示構成となります。

1978年生まれの湯浅克俊は、武蔵野美術大学油絵学科版画専攻卒業後、渡英。2005年ロイヤルカレッジオブアート（ロンドン）修士課程終了。日本をはじめイギリス、ドイツなどを中心に活動し、すでに欧米での個展も多く経験、数々の世界的なアートフェアなどにも出品。日本の伝統芸術の一つともいえる木版画、写真とデジタル技術とが融合した湯浅の作品には、現在、世界中の注目が集まりつつあります。



「Colours / Numbers」

私たちが普段何気なく目にしている「色と数」。日常生活において、そこに深い意味を常に意識することはありませんが、潜在的に私たちは何かを感知し、取捨選択しています。

湯浅が制作において今回あらためて意識したことは、「意思と無意思」を俯瞰すること。「任意性」はいかにして選択されるのか？ということです。

自らが撮影した写真やインターネットからひろった写真をデジタル加工し、版木に転写したのち、木版画を制作する、という彼のユニークな作品プロセスには、彼の経験や技術とは別に、一つずつの工程において「選択の必要性」が立ち現れます。

「いつも写真を選ぶのも大変です。これまた意思なのか無意思なのか分からないところがあります。これはカメラというオブジェを通して撮影するという写真の仕組みにも言えることです。写真は同じアングルで撮影すれば誰が撮影したかということとは分からなくなってきます。写真における作家性とはなんなのか」



Can beauty save the world ? 60.5cm x 45.0cm

「毎回作品に対して制作する理由、根拠が必要となります。自由に絵を描くことができないのです。色に関しても同じで、色を使うにも理由が必要になってきます。」



Possibilities of possibility 64.5cm x 48cm

「Numbers」では、数字の羅列において、偶然性（ランダムネス）を人間の手で作れるかという問いを作品に反映しています。数字の持つ意味、印象は、国によっても異なるかもしれません。そういった個人の中に存在する意味を無視して制作することは、非常に難しいと湯浅はいいます。

「数字に関しては長年興味があり、作品のタイトルにも使用しています（ベンチのシリーズ）。数字が物語性を持つのか否か、ある任意の数字は誰かによっては特別な意味を持つかもしれないということです。逆に、数字という記号さえ、人間の偏見的な思い込みから逃れることはできないのでしょうか。（4はアンラッキー、7はラッキーといった）」

文明社会において、与えられた利便性や豊かさに疑問を持たず、あたりまえに日常を送っている私たちにとって、物事の判断はどのようになされているのでしょうか？

「意識」してなすことと、「無意識」ですること。その背後にある意味。私たちが気づかずに立っている足元を問いかける展覧会になります。